

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大河原町立大河原中学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-1247

宮城県柴田郡大河原町東1

E-mail daichu@ogawara-k.miyagi.jp

Website <http://www.ogawara-k.miyagi.jp/daichu/>

幼児児童生徒数 男子 290名 女子 323名 合計 613名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自覚・立志・健康」を学校理念として、ESDを持続発展可能な社会を構築する担い手となる生徒の育成を図る場と捉え、ESDの実践を通してボランティア精神の高揚を図り、学校・家庭・地域でできるボランティア活動や環境に配慮した活動に取り組む態度の育成を目標とした。

具体的には、JRC活動、大中ボランティアセンター、アルカス・オリオンを柱に、国際理解に係わる学習を行った。

### ① 国際理解に係わる活動

同年代の世界の子ども達の現状を知り、自分たちの生活を見直すとともに、自分たちに何ができるのかを考える機会をもつため、ユニセフ出前授業を行った。DVDやパワーポイントを使用した講話をいただき、水がめ運びや蚊帳体験などの体験学習を行った。出前授業後には、生徒から自発的に募金活動をしたいとの声があがり、JRC委員会を中心にユニセフ募金活動を行った。

## ② 防災に関わる活動

東日本大震災の教訓を風化させず，防災意識の向上を図るため，そして，地震発生時における避難行動を身につけさせ，自分の命を守る行動をとらせるため，避難訓練を行った。停電により校内放送が使えない状況を想定したもので，震災時には，宮城県で3分程度揺れていたことから，机の下にもぐる避難行動を2分間行った。また，登下校中に大きな地震が起きた場合の自分の身の守り方を理解させ，各地域の指定避難所を確認させるため，町小中合同避難訓練を行った。



① パワーポイントによる講話



① 蚊帳体験



① 水がめ運び体験



② 大河原町小・中合同避難訓練

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユニセフ出前授業
----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

特別な教育課程は編成しないが、JRC 活動、大中ボランティアセンター、アルカス・オリオンのそれぞれ3つの形態により、通常の教育課程および課外活動として取り組む。また、各教科の学習や学活、道徳、総合的な学習の時間、NIE などでもボランティア活動に関連した事項を取り上げ、つながりを持たせた学習とする。さらに町福祉協議会や学校支援地域本部などとの連携を図り、情報の収集や活動の幅を広げるよう努める。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

JRC 委員会を中心に、各種募金活動、エコ活動、奉仕活動など広く全校生徒に呼びかけ、全校体制での取組とする。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

出前授業や小中合同避難訓練などを行った際に、事後指導としてアンケートを実施した。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

JRC 委員会として、朝清掃や駅前清掃、各種募金活動を行った。地域清掃に対する生徒達の意識が高まってきており、夏祭りの清掃も行いたいと提案が出てくるまでになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に活用しませんでした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に取り組みませんでした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユニセフ出前授業を通して、世界には、学校に行きたくてもいけない同年代の子ども達がたくさんいることを知り、将来はグローバルに活躍できるような人になりたいという思いをもった生徒がいた。また、自分たちにできることは何かを考え、生徒が自発的に募金活動を行った。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 地域の朝清掃
- ・ 各種募金活動
- ・ 駅前清掃活動
- ・ 講師を招いての講演会